

会議録

1. 会議名 南部町子ども・子育て会議（令和6年度 第2回）	
2. 日 時 令和6年11月13日（水）19時00分から20時05分	
3. 場 所 南部町役場 すこやか トレーニング室	
4. 出席者 <委員>南部町子ども・子育て会議委員（11名）10名出席 <事務局>子育て支援課課長、子育て支援課課長補佐、子育て支援課主幹 教育委員会事務局総務・学校教育課課長、福祉事務所所長	
5. 次第 1 開会 2 自己紹介（新委嘱職員） 3 報告事項 （1）南部町こども計画策定のためのアンケート結果について（資料2 P23～P38） 4 議事 （1）私立保育所（公私連携型）と認定こども園の比較について（資料3） （2）南部町こども計画（案）について（資料1、資料2） 5 その他 6 閉会	
6. 報告内容	
事務局（説明）	（1）南部町こども計画策定のためのアンケート結果について（資料2 P23～P38） ・資料に基づいて事務局より説明。 ○報告事項（1）については質疑なし
7. 議事	
会長	これより4の議事に入るが、ここには関係者の方がおられるので、一時退席をお願いする。
事務局	（1）私立保育所（公私連携型）と認定こども園の比較について（資料3） ・資料に基づいて事務局より説明。 認定こども園と保育園の違いは、入所の要件等もあるが、大きな違いは教育内容の充実になる。また子育ての施設というところもある。これまでの会議の中において、町民ニーズに沿ったものにしたいと会長の方からあったので、少しニーズの方について説明をする。 本日の資料2のこども計画の中の6ページに1号認定というところで記載している。1号認定が教育標準時間ということで満3歳以上のお子さんが対象になるものである。この資料の1号認定についての実績数字は、全て町外施設に通う方であって、令和2年度からの町内施設に通う1号認定の方がいないという結果になっている。

会議録

	同じく 17 ページ。これは保護者のアンケートということでしたもの。定期的に利用したい教育保育事業に関する質問について、認定こども園（町内）とあるのは、すみれこども園に限定したものであり、すみれこども園に通わせたいというものである。幼稚園希望について今回の調査結果と前回の調査結果を比較した数字を見ると、幼稚園希望が増加し、認可保育所及び小規模保育施設が増加しているということから、教育を受けさせたい親御さんは幼稚園を希望され、早く働いて子供さんを預けたいと思われている方は保育園を選択される傾向があると推察をしている。これにより町の方としては、現在認定こども園の希望はあまり高くないという判断をし、保育園で0歳児など幼少期から受け入れをする施設がいいということで判断をし、保育園ということでの形態での提案にさせていただきたい。
会長	今の説明について質問があればしていただいて、その後委員の皆さんより意見を述べていただきたいと思います。
各委員	（質問なし）
会長	質問はなしということでよろしいか。では、次に意見を伺う。
委員 A	前回、終盤に保育園が望ましいのか、こども園がいいのかという話があつて、それをこの場で決めることがどうかという話があつた。仮にこの場で、やはりこども園というあり方の方がいいのではないかという議決になったとしたら、その場合にはどういう方向になって、どのように反映されるのか。
事務局	皆さんの方からご異議、皆さん全員が反対をされたら、それはご意見としてそれを踏まえて再度検討するという必要が出てくると思っている。この採決をいただいた結論については、これで全て決定ということではなく、皆さんからいただいた結論、結果を町長の方で判断をするということになる。
委員 A	分かりました。認定こども園のあり方というのがちょっと私自身理解しきれないところがあるので、その上で私の思いを言わせていただく。例えば認定こども園になると、保育園要素と幼稚園要素とい

会議録

	うのが出てくるので、そうなってくると町あるいは運営される伯耆の国さんには、認定こども園だとしたら、幼稚園教諭の免許をもった人材を揃えないといけないという問題も出てくるかと思う。 それが可能であれば、認定こども園であるので、2号、3号認定で入られた方も保育教諭の資格を持った方が保育をされるということで、教育的な要素も得られる。それはそれでいろいろメリットがあるのではないかと思うが、例えば1号認定で入られた方も2号、3号認定で入られた方も、保育教諭の方がこどもの保育をされたら、それはそれで非常に教育という面に関しても充実するのではないかなと思う。認定こども園のメリットというのもあると私は思う。
会長	2015年にすみれこども園ができて、幼稚園的なニーズが私はないと聞いているが、ちょっとその辺を確認したい。町内に認定こども園に通いたいという保護者がおられたら、すみれこども園の方に行っていただくということも、考えられるなと思う。委員さんが言われるように、メリットというのは確かにある。利用実態としてそこがないなら、町内になしっというわけじゃなく、あくまでもすみれこども園はあるので、今度できる保育園については、従来の保育所という形でやられたらどうかというのが、私の意見だ。実態のことをちょっと話していただくことと、再度皆さんにご意見があれば申し出てほしいと思う。
事務局	実態につきましては、調べ直しましたところ、平成28、29年度にはそれぞれ1名、3名の利用が確かにあったという、開園した当時はあったが、それ以降はないという具合に記録がある。
事務局	お母さんがお勤めでない状態になったので、1号認定になられたら引き続き入れるというところで、1号認定で入れられたというところがあるようだ。
事務局	委員さんが言われたのは教員免許のことでしょうか。
委員 A	幼稚園だといわゆる教員免許を持っているという話だ。
事務局	今の保育士さんはだいたい両方の資格持っておられる。両方の免許を学校で取るようにはなっているので、逆に保育士の免許を持っていない方がおられるので、保育士の免許が必ずいるよ、みたいなことだ。1号2号3号の方でも免許はあるので、全て同じような教育

会議録

	という考え方で立っての保育施設でも認定こども園でも先生としての関わり方、考え方は、メリットと言われたが、同じような感じで保育園も一緒かなと思っているところ。
委員 A	実態としてそんなに差はないということ。
委員 B	保育ニーズが高かったら、1号認定の枠を作ると保育認定の枠の人数も減る。募集人数が保育園全体100人募集で、枠が5人幼稚園枠と言われたら、95人だけが保育園の定員ということになるので、保育所に入る枠が少なくなるということにもなる。
事務局	保育の枠と教育の枠を合わせて定員とする。
委員 B	保育園ニーズが高いとなると、保育所の方が効率としてはいいのか、南部町としてはいいのか、望まれているのか、と思う。米子の認定こども園では、教育の枠があっても利用がないと言っておられた。やっぱり米子も保育ニーズの方が高い。
会長	他の方、何かご意見はあるか。
委員 A	大体今の説明で理解した。そういうところがお聞きできたことでもよかったと思う。
委員 B	保護者さんの中には、認定こども園の利用の仕方もよく分かっておられないかなと思ったりもする。
事務局	預ける時間も短くなる。保育認定の方が長く預けられるし、1号認定だと13時までと短い。
委員 B	幼稚園型はすごく利用の価値があるが、幼稚園に行かせたいが、仕事があるので行かせられないという人がその幼稚園の認定こども園に行くと、保育時間が長く見てもらえるので、幼稚園型だととても利用があると思うが、保育所型だとちょっと逆かなと思う。
会長	要するに南部町では保育所を望んでおられる方が多いかなということで、この判断に至ったと思うので、再度はかりたい。ご異議はないか？

会議録

各委員	(異議なし)
会長	異議なしと認め、事務局案で決定したいと思う。 (関係委員再入室) それでは再開する。2 について事務局より説明をお願いしたいが、各委員の皆さんからお聞きしたご意見を参考に計画案に反映したいということを伺っているので、発言やご意見のある方は、説明の後、発言をお願いしたい。それではお願いする。
事務局	(2) 南部町こども計画(案)について(資料1、資料2) ・資料に基づいて事務局より説明。
会長	「こども計画案」についてご質問ご意見があったらお伺いする。
委員 C	46 ページの「子育て支援制度の充実」というところの主食の提供のところでお話があったところだが、その下にある「高校等通学定期券購入補助等」とあるが、これは高校生のみか？中学生は対象ではないか？例えば今一般的に法勝寺中学校、南部中学校に進学されると思うが、そうではなくて米子の私立の北斗に行きたいという場合、そこに関して補助はないのか。
事務局	ここに書いている高校等通学定期券補助は、ここに書いてあるとおり高校のみで、本人の考えで私立の中学校等に行く場合についての補助は行っていない。
委員 C	はい、了承した。
会長	他はないか。
事務局	補足で1 ページにあるひきこもりのこどもも増えているということもお伝えしているので、紹介させてもらってもよいか。記載してないが、数字を用意しているので。
事務局(教委)	不登校の状況ということで、お伝えしたい。新聞にも令和5年度の出現率について国も出ていたし、追って県も出ている。南部町の状況は、令和5年度は国や県の出現率を大きく上回ってしまった。 令和5年度小学校の不登校児童は15名。出現率は国が2.14、県が2.27のところ、南部町は3.10でした。また中学校は19名の不登校

会議録

会長	生徒であった。国が 6.71、県が 7.19 のところ、南部町は 7.51 でした。背景などについては各学校の聞き取りをして、スクールソーシャルワーカーも中心となって、ケース会議等を行って対応をしているところだ。 不登校については長年課題を抱えている南部町だが、変わらず下がっていないという報告であった。私も教育行政に関わった者として、非常に残念に思うところだ。ここはしっかり、こどもたちの未来に向けてできることは、なんとしてもやっていかなければと思っている。また皆さんそれぞれの立場でご協力をお願いしたいと願う。 では次回 1 月に開催する会議で、再度見てもらうということによろしいか。これで 2 の審議は終わるが、今後もし何か、膨大な資料ですが、ご意見等ありましたら、直接子育て支援課の方に連絡してみたいということで、よろしくをお願いしたい。
8. その他	
会長	5 のその他だが、事務局何かあるか。
事務局	特になし。
会長	皆さんのほうで何か協議したいことはあるか。なければこれで会議は終了する。皆さん、お疲れ様でした。
9. 閉会	閉会（20：05）